

「石原さんの"ウクライナ戦争に思う」に寄せて

令和5年8月20日

西川浩一路

石原さんの寄稿文読みその心情に同感頻りです。自分も全く同様の心理状況であると思います。

自分も石原さんの希望的願望の結果を期待することには変わりはありませんが、アメリカの学者先生の見解は現状の認識が甘いのではないかと思料します。ウクライナの継戦能力についての判断です。ウクライナは自国の戦闘能力だけでは到底ロシアに敵せず、西側、米英を含むNATO諸国の恒常的な軍事上の援助が継戦能力の維持に必須であること御高承の通りです。

しかし、その援助の規模も、迅速性も全くウクライナの要望にほど遠く、今日の反転攻勢の苦戦事由も援助の遅滞によりロシア軍に防備体勢を固めさすのに充分過ぎる時間を与えた結果に外ありません。

既に"援助疲れ"という言葉に表れているように、その援助が引き続き適切な規模と時期に為されるのか疑わしい限りです。"ロシアに勝利させてはならない"と西側諸国が口々に言うのであれば、中途半端な支援の仕方ではなく圧倒的規模と集中した時間単位で行うべきでしょう。戦力の逐次投入こそ最も愚劣な戦法とされているのだから、支援上からも最も効率の悪い結果しか得られないでしょう。

これは、欧州諸国が対ロ姿勢に異同あり、真剣に自分たちの戦争と捉えていないからで、これは将来ロシアにウクライナ進出を許した結果を歴史上の教訓があるにも関わらず認識できないからでしょう。ヒトラードイツのチェコ進出を看過したことが第2次大戦を招いた近時の事実を忘れる位、ボケて忘れる様になった老欧州なのかもしれません。

欧州自身がウクライナの敗戦後の姿を想定するなら、これはわが戦争と受けとめ本腰を入れた支援を仮令密やかにかくれてでもすべきと考えますが、諸兄の意見はいかがでしょうか。

日本の敵性国家は中国、北朝鮮、ロシアであることは明自でしょう、ロシアが何年にも及ぶ長期戦を続けその兵力の損耗と国力の疲弊は日本にとり極めて望ましい経過であり、ウクライナ人の悲哀を見て見ぬ振りをするならこれは敵の自滅を眺めている様で極めて日本にとり好ましい成り行きでしょう。これから何年も何年もウクライナが頑張ってくれることを願うばかりです。その為には自衛隊の旧式廃棄予定の武器弾薬を表立たぬ方法で可能な限り送付援助すべきでしょう。国費を使って廃棄処理に手間と金をかける位なら、僅かでもウクライナに喜んで貰えるほうが良いでないでしょうか。

北海道を挟んで直接対決して自らの血を流すより随分ましでしょう。

この戦争は今後の戦争に大いなる示唆と教訓を与えるでしょう。

1. サイバー戦の重要さ

事前、事後の隠れた宣伝戦と相手の社会インフラ機能の破壊
情報網そのものの混乱、破損

2. ロボット戦争の先駆けとなること

ミサイル、ドローン(空中、水中)、ロボット兵士の開発進化
無人航空機の量産

3. 非対称兵器の開発と量産

1発億円乃至数千万円のミサイルを数十万円の迎撃弾で撃ち落とす
数千万円の水中ドローンで諸軍艦、艦船で爆破する
携帯型航空砲で航空機、ペリコプターを撃墜

しかし、何をおいても核弾頭程絶対的破壊力を持つものはない、これを持たずして、本格戦争に勝利することは無理である。

日本も迅速にこれらの新兵器を開発、試作してその実用性を確かめるためにウクライナ軍に使用して貰い、大いに実用性あるとなれば世界中に売りまくり外貨を稼いではどうだろうか。少なくとも、実用化TESTの場としては願ってもない機会である。

ウクライナ侵入後に行ったロシア兵の行為の数々は日本人が朝鮮、満州、シベリヤで受けた非道なるものと何ら変わりありません。数十年後も前時代的な非人道行為は許されるべきではないでしょう。

かって、千葉さんは先ずプーチンの抹殺が肝要なること示唆されましたが、自分はそれだけでは基本的な解決にならず、将来の世界を考えるならば、プーチンに80%の支持を与えているロシア国民も大問題でピョートルからスターリン、それを崇拝するプーチンに至るロシア国民の民族性も糾弾されるべきでしょう。自国民でさえ気に入らなければ簡単に抹殺し続ける政府が他国民にそれ以上のことをするのに何の抵抗も覚えないでしょう。それ故、ロシア国民そのもの、少なくともロシア国家の存立を亡くさねばならぬというのが単純な結論でないでしょうか。

核武装国の抹殺方法は如何にすれば可能なのか?皆さんの提案を求めます。